

平成時代（商業文化の集積と市街地の高密・複合期）

昭和の後期から現在にかけて、池袋に東京芸術劇場など文化・交流施設が建設されました。また、幹線道路の沿道では中高層のビルやマンションが増加し、駅周辺では住宅地のなかに事務所、店舗、マンション等の混在がすすみました。

（2）人口と世帯

豊島区は人口密度が高く、また、池袋副都心を中心に昼間人口が多い都市です。単身者が多く、一世帯あたりの人員が少ないのも特徴です。

人口

住民基本台帳による豊島区の人口は、平成12年1月1日現在で、約23万5千人です。人口密度は約180人/haで、23区の中では中野区に次いでいます。

総人口は、昭和40年の約37万3千人をピークに減少を続けていましたが、平成10年には微増に転じました。人口動態では平成4年以降、死亡数が出生数を上回る状況が続いています。平成9年からは、転入数が転出数を上回っています。

年齢別人口構成

昭和56年から平成12年の20年間で、年少人口（14歳以下）は16.4%から9.1%へ減少し、逆に高齢人口（65歳以上）が9.6%から18.1%に増加しました。生産

図1-1 人口の推移（住民基本台帳）

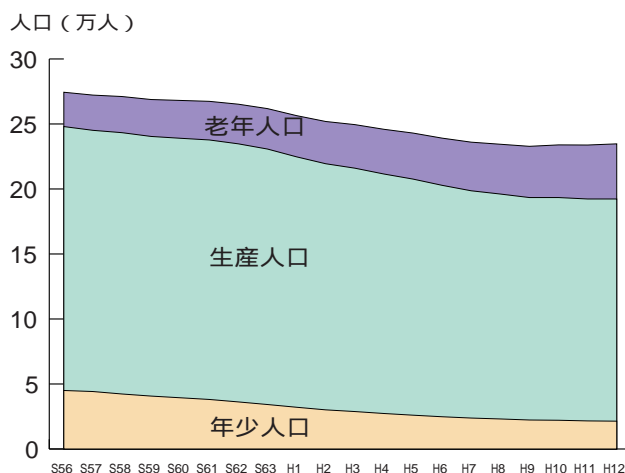


図1-2 転入・転出者数の推移（豊島の統計）

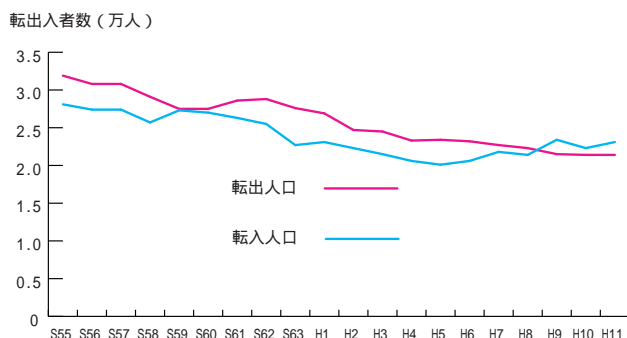
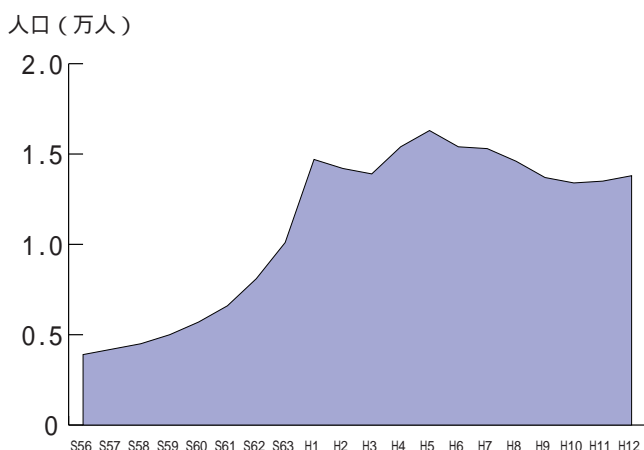


図1-3 外国人登録者数



年齢人口（15歳～64歳）は74.0%から72.8%へとほぼ横ばいを保っています。

外国人人口

平成 12 年 1 月 1 日現在の区内の外国人登録者数は 13,845 人です。外国人登録者数は昭和 50 年代後半から 60 年代にかけて急増しましたが、平成 5 年をピークに若干減少しています。

世帯

平成 12 年 1 月 1 日現在、世帯数は約 12 万 7 千世帯です。世帯数は昭和 58 年から昭和 62 年にかけておおむね増加した後減少に転じましたが、平成 7 年を底に再び増加に転じました。

一世帯あたりの人員は一貫して減少傾向にあり、平成 12 年には 1.84 人となっています。若者及び中高年の単身世帯が増加する一方で、夫婦と子供の世帯や三世帯世帯などファミリー世帯の比率が減少しているためです。



図 1-4 世帯数と世帯当たり人口推移（住民基本台帳）

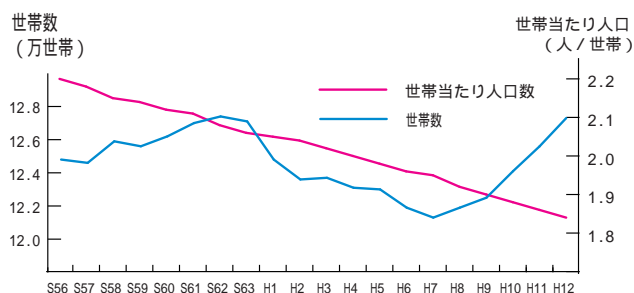
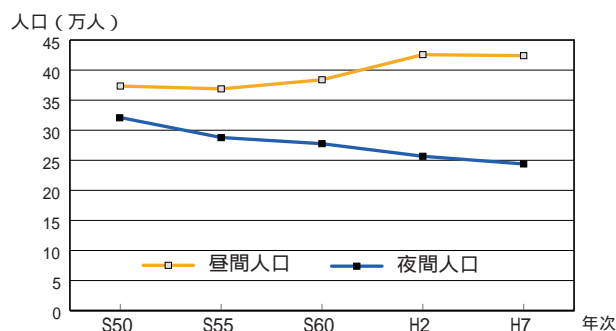


図 1-5 夜間人口と昼間人口の推移（国勢調査）



昼間人口

昼間人口は平成 7 年の国勢調査では約 42 万 4 千人です。これは夜間人口の約 1.7 倍にあたります。昼間人口は、昭和 55 年から平成 2 年の 10 年間には約 5 万人強増加しましたが、以後横ばいが続いています。

来街者

豊島区には買い物や鉄道の乗り換えなどの一時的な来街者（区を訪れる人）が多く、昼間には相当数の人がいることが大きな特徴の一つです。なお、都市交通年報によれば平成 7 年度の池袋駅の 1 日あたりの鉄道乗降客数の平均は、約 337 万 6 千人です。